

◎2013年9月定例会

◎知事と教育長の答弁、田辺の要望

<小川洋知事の答弁>

お答えを申し上げます。まず、子どもの外遊びについてでございます。

子どもの遊びは、体力、社会性、感性、創造力などを育む大切な活動であると思えます。特に外遊びにつきましては、自然に触れ合っ、思い切り体を動かすことから、お子さんたちの心身の健全な育ちにとって大変重要であると考えております。

県では、この子どもの遊びに関しまして、議員もお触れになりましたが、2001年度と2011年度に、県内小中学生を対象とした実態調査を行いました。その結果を見ますと、放課後や休みの日によく遊ぶ場所として、「自分の家」それから「友達の家」と答えたお子さんの割合は、いずれの調査でも、2001年度と2011年度の両年度でございますが、いずれの調査でも70%前後で大きな変化は出ておりません。一方で、公園と答えられたお子さんの割合が、2001年度に29%だったものが、2011年度には48%と20%近く増加をしております。また、この間、地域のお子さん同士の交流の場である「児童館や児童センター」、そこで遊ぶと答えたお子さんの割合も大きく増加をしているところであります。

こうした調査の結果の両年度の推移を見ますと、好ましい状況、変化もうかがえる一方で、依然として屋内遊びの割合が高いことから、外遊びを増やすことも必要であると、このように考えているところであります。

議員も自分のお子さんのころの話をされましたけれども、私自身の子どものころは、学校終わったら仲間と集まって、自分たちで遊び場を見つけて、道ばた、あるいは空き地で野球やったりですね、いろんな遊びをしたものでございます。工夫していたと思います。今のお子さんたちを見ておりますと、整備された場所ではしか遊んでないとかですね、そういった状況も見られますので、ある種、一方で、寂しさを覚えるというような状況でございます。

お子さんたちの外遊びが少ない要因についてお尋ねがございました。

まずは都市化の進展に伴います遊び場の減少がひとつあるかと思えます。また、議員が触れられました情報化の進展に伴いますインターネット、あるいはゲーム機などの急激な普及というのがある。そして親御さんたちの意識・態度、そういったことが、屋内遊びに比べて外遊びが少ないことの要因ではないかと考えております。

県では、これまで、放課後や休日のお子さんたちの居場所であります「アンビシャス広場」づくり、あるいはサマーキャンプなど、屋外での体験活動事業を通じまして子どもの外遊びを促進する取り組みを進めてきたところでございます。

子どもの豊かな感性や健全な心身を育てていくためには、外遊びは欠かすことのできない重要な要素であると思っております。このため、これからも広場づくりや体験活動といったアンビシャス運動をしっかりと推進していきたいと思っております。

地域が一体となった子どもの健全育成のための取り組みについて、お尋ねがございました。

「地域に併存をする」と言われていた二つの取り組み、仔細について申し上げますと、アンビシャス広場は、子どもが誰でも自由に立ち寄ることができる「居場所」である。地域のボランティアによって運営をされております。一方、子ども会育成会は、会員となったお子さんたちがそれぞれの役割を分担しながら、夏祭りとか廃品回収、そういった様々な活動を自立的に運営をし、保護者がこれを支援する組織だと認識をいたしております。

このように、それぞれの役割、違いはございますけれども、お子さんたちの健やかな成長を支えるという目的は共通でございます。

従いまして、こうした目的に沿いまして、アンビシャス広場や子ども会育成会をはじめ、学校、PTAなどが地域の実情に合わせて、互いに協力しながら、地域ぐるみの、また地域で一体となったお子さんたちの健全育成に取り組んでいくことが極めて大事だと思っております。

#### <杉光誠教育長の答弁>

県子ども会育成連合会の加入者数等の減少の背景と対応についてでございますが、少子化、共働き世帯の増加であるとか、地域における人間関係の希薄化、子どものニーズの多様化などにより、子ども会育成連合会に参加する子どもの数が減少していると考えているところです。

そこで、県子ども会育成連合会におきましては、現在、子どもを取り巻く状況や加入促進の対応策などについて、各市町村子ども会育成会に対し調査を実施をしております。今後、その結果を分析し、効果的な対応を検討することとしております。

県教育委員会といたしましては、このような県子ども会育成連合会の主体的な取り組みを支援するため、必要な助言等を行ってまいります。

次に、子ども会育成会の活性化に向けた取り組みについてでございますが、県教育委員会といたしましては、これまで、県子ども会育成連合会の研修等の企画に対する専門的助言、広報活動への支援、他県等の先進事例の情報提供等を行ってまいりました。

今後その充実を図り、活力ある子ども会育成会の運営ができるよう支援をしてまいります。

アンビシャス広場との協力についてでございますが、実際に子ども会育成会がアンビシャス広場委員会に参画したり、アンビシャス広場を活用して行事等を行ったりしている事例もございます。

子ども会育成会とアンビシャス広場が、それぞれの役割を果たしながら、地域の実情を踏まえ協力することによりまして、子どもたちが多様な活動を行う場を確保することが大切であると考えております。

今後、地域が一体となって子どもを育てていくという意識が醸成されますよう、子ども会育成会をはじめ、関係団体とも連携を図りながら、さまざまな機会において一層の啓発を図ってまいりたいと考えております。

学校と家庭、地域の連携による子どもの体力向上についてでございます。

子どもの体力向上は、幼少期から体を動かす楽しさを実感させ、学校や家庭、地域と連携を図り、活動の場や機会を提供するなどして、発達段階に応じた運動・スポーツの習慣化を図ることが大切であると認識をしております。

しかし、現在、子どもにとって、外遊びやスポーツに不可欠な要素であります時間、場所、仲間の確保が難しい状況でございます。

そのため本年度から、学校において、すべての子どもが運動に親しみながら、体力向上が図られますよう、体力の上位県でも取り組んでいる「1校1取組」運動を本県でも推進しているところでございます。

この取り組みの中には、例えば、土曜日の午前中に、保護者が中心となって、地域のスポーツ指導者やスポーツ推進委員、教職員が参画をし、子どもたちを対象にカヌー教室や陸上教室等を行っている事例も報告をされております。

県教育委員会といたしましては、学校・家庭・地域が参画するこのような取り組みの効果を検証するとともに、モデル校として位置づけ、市町村教育委員会とも連携を図りながら、県内全域に普及、啓発してまいります。

#### <田辺の再登壇・要望>

知事と教育長からご答弁をいただきました。

今回、子ども会育成会とアンビシャス運動の活性化というのを軸に、本県にとって「地域で子どもを育てる」ということは何かということを考えさせていただきました。常々、地域を回っておりまして、結局、県民の皆様にも、子ども会育成会とアンビシャス運動がともにある意義はなんですかという疑問を呈される機会が多々ありまして、こ

れは本県として、先頭に立つべき知事がこの問題について整理をしていただきたいという思いがあって、質問をさせていただきました。

このテーマに関しては、かねてより問題が指摘されているところですが、やはり、なかなか改善されない。おそらく、その原因はひとえに、昔は考えるまでもなく当たり前に行われていた「地域に関わる」ということについて、現代の大人、また私も含む親の意識をなかなか改善できないということが根っこにあるためだと思います。教育長の答弁では、さきほど「地域の間関係の希薄化」という表現が使われておりましたけれども、やはり、本来は、行政が施策に取り組むことで家庭、地域の力を引き上げるといふこと自体が、この社会の衰退というものの一端を示していると思いますけれども、嘆いていても仕方がないということで、なんとか、アンビシャス広場の展開で活力を維持している様々な事例を基にしたですね、全県的な底上げ、そして子ども会育成会の活性化、これを「車の両輪」として取り組んでいただき、本県の次世代を育て、強い福岡県の実現を図っていかねばならないと考えております。

最後に、教育長に対し、強く要望をさせていただきます。教育長はこの定例会における自民党県議団の皆様の代表質問において、来年度、教育力向上福岡県民運動の総括と必要な見直しに取り組む考えを表明されております。この運動の中には地域と家庭の教育力を高めることや、地域と家庭が学校を支援する体制の重要性というものがうたわれています。

ぜひとも、本県の教育ビジョンの再構築の際には、今回のやり取りの中で、知事からこれまで本県の地域力を支えてきた取り組みの意義と役割を示していただいたこと、さらに教育長自身からも一部の大人だけでなくすべての大人が地域一体となって子どもたちを育てていくことの大切さの認識を共有していただいたことを踏まえて、しっかりと新たなビジョンに理念として盛り込んでいただきたいと思います。

以上、要望をいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。